

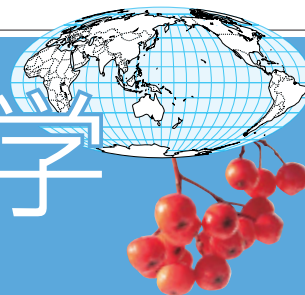
学報

学校法人 北海学園

北海商科大学

アジアの時代に、アジアを学ぶ。

Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.29

2020.12.18

発行: 北海商科大学
編集: 北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL: 011-841-1161 (代)
FAX: 011-824-0801
https://www.hokkai.ac.jp
制作: (株)ラボット

主な記事

3. 後期ガイダンス実施と後期授業開始 ——— 2面
4. オープンキャンパス開催 ——— 2面
5. 2020、2021年度キャリア支援 ——— 3面
6. 高校生懸賞作文の募集 ——— 3面
7. 中国語スピーチコンテスト ——— 3面
8. 国際交流事業について ——— 4面
9. 留学報告記 ——— 4面
10. 韓国語関連コンテストでの受賞者、道内最多 — 4面
11. 大学生100人文化交流訪中国に参加 ——— 5面
12. ゼミ訪問 ——— 5面
13. 研究のいま ——— 6面
14. 北海道地域観光学会全国大会 ——— 6面
15. OB・OG NOW! ——— 6面
16. 高大連携プログラム実施 ——— 7面
17. 北海道創生研究会 ——— 7面
18. STAFF NOW! ——— 8面
19. 医務室から「二十代の健康」連載⑭ ——— 8面
20. 新刊紹介 ——— 8面
21. 行事予定 ——— 8面

後期授業スタート！ 授業をスムーズに進めていくため多様な形態で柔軟に実施



対面授業（ニールセン ブライアン教授）

後期授業が9月28日から対面授業・遠隔授業＜リアルタイム型、オンデマンド（録画）型＞のハイブリッド（複合）でスタートしました。（9月28日撮影）

新型コロナウイルスへの 対応とその後を見据えた 行動を期待して



商学部長 伊藤 昭男

新型コロナウイルスの災禍に対し、本学では、4月から授業を開始するに際して学年暦を大きく変更することなく、総力を挙げて遠隔（オンライン）授業をスタートさせ、6月から小規模大学の利点を生かしつつ段階的に通常（対面）授業を再開しました。遠隔（オンライン）授業においても対面授業に相当する教育効果をオンライン上で保証するように、教職員が一丸となって取り組んできました。こうした学生と教職員とによる協力的な対応により、何とか前期の授業を終えられたことについて改めて感謝するものです。

一時は感染状況の低下傾向がみられ好転するかに思われた新型コロナウイルスですが、感染の波が新たに発生し、全国の大学においても感染者の報告が続くなど、予断を許さない状況は依然として続いています。本学においても感染者が発生し、直ちに対応措置（対象者への適切な対応、消毒など）を講じた結果、軽微な影響で終わりましたが、冬を迎える後期授業においては今後も油断せずに慎重な行動が求められます。

しかしながら、新型コロナウイルスに対しては、日常の活動内容のバランスも考慮した対応が求められます。脅威を感じる新型コロナウイルスではありますが、一喜一憂することなく沉着冷静に適応していくことが重要でありましょう。こうした状況であるからこそ、これまでできなかったことを実行してみる（例えば、まとまった時間を必要とする読書・学習・資格取得など）という逆転の発想もあるかと思います。

いずれにせよ、後期授業をスムーズに進めていくためには、これまで言われ実行してきた感染予防対策を油断することなく継続していくことが肝心です。学生、教職員が一丸となってこの難局を切り抜けていこうではありませんか。どのような人生も山あり谷ありです。若者である学生はこれからの未来を切り開いていかなければなりません。前途を悲観視せず、あせらず希望を持って進んで行ってほしいと思います。自分でよく考え、勇気をもって流されることのない人生を着実に歩んで行ってほしいと思います。学生の皆さんの将来に期待しています。（11月6日記）



リアルタイム型遠隔授業（李 鳳准教授）



校舎入り口のエントランスホール等にサーモグラフィカメラを設置し、カメラによる体温チェックを行ってから学内に入構、マスク着用義務付け、手指消毒、3密回避、室内換気などの対策を徹底しています。

後期ガイダンス実施と後期授業の開始について

令和2(2020)年度後期ガイダンスは、新型コロナウイルス感染症への対策からCoursePower上にガイダンス資料を公開するオンライン形式で、9月9～24日の期間に実施されました。ガイダンスでは、教務センター、学生支援センター、キャリア支援センターより各年次生に向けて必須の連絡事項や注意事項等から成るガイダンス資料が一斉に公開されました。教務センターからは、シラバスの活用、授業中の基本マナーの確認や個別相談の案内といった例年の内容に加え、後期の授業形態、遠隔授業受講上の留意点、オンラインによるオフィス・アワーの利用や遠隔授業に向けたコンピュータ教室利用の案内等が新たに周知されました。9月12～18日までの1週間で2年次と3年次の専門ゼミナールの申し込みと履修許可発表を行い、9月16～19日の期間にGPA順(4年次のみ先着順)に各学年の履修登録を実施しました。その後、履修登録科目の訂正を9月23、24日に実施し、後期の授業は9月28日からスタートしました。

後期授業の開始について

本学では、学生及び教職員の健康と生命の安全を確保することを第一に考え、前期より新型コロナウイルス感染症に対して3密(密閉・密集・密接)を回避することを基本として、①大学が講じる対策(教職員のマスク・フェイスシールド着用、出入口の常時開放及び一定時間間隔での教室内換気の実施、授業時の人数制限(教室定員の1/2以下)と密集回避のための座席指定、対面授業の免除等)、②学生に要請する対策(登校前の検温励行と倦怠感・発熱時の登校禁止、マスク着用の義務化、登下校時・授業前後の手洗い・アルコール消毒等)に分けて、全学的に周知の徹底と対策の遵守を図りながら授業を実施してきました。

後期においてもそれらを継続し、原則としてオンラインを活用した授業を実施することとしました。ただし、語学、実習、演習、設備面で対面でなければ教育効果が見込めない科目については対面授業が必要不可欠と判断し、3密対応型対面授業を行う一部の科目で対面での授業を実施可能としました。

そうした基本方針の下で、教務センターでは後期の授業開始に先立って、科目ごとに授業形態に関する教員の意向を調査し、全科目を①全ての授業回を遠隔授業(リアルタイム型)、②同(オンデマンド型)、③同(課題提出型)、④全ての授業回を対面授業(3密対応型)と遠隔授業(オンデマンド型)の併用、⑤全ての授業回を対面授業(3密対応型)と遠隔授業(課題提出型)の併用、⑥全ての授業回を対面授業(3密対応型)といった6形態に分類し、それらを後期授業時間割表に反映させて後期ガイダンス時にCoursePowerを通じて公開しました。ただし、上記形態による授業は当面の期間(10月31日)までとし、学期途中でも新型コロナウイルス感染の状況変化に応じた対応を行うことを前提にして、令和2(2020)年度後期の授業は9月28日にスタートを切りました。

(教務センター長 佐藤 博樹)

3

4



対面授業(水野俊平教授)



対面授業(蘇林教授)



オンデマンド(録画)型遠隔授業(見附陽介講師)

写真上中：3密対応型対面授業と、写真下：遠隔授業(オンデマンド型)・写真前頁右中：(リアルタイム型)を感染状況に応じて実施しています。＊写真は全て9月に撮影

オープンキャンパス開催



写真上：開会式の挨拶にて、本学の歴史や建学精神、アドミッションポリシーなどについて語る堂徳将人入試・広報センター長
写真中左：新型コロナウイルス感染症対策に万全を尽くして実施された(受付での検温)
写真中右：個別相談
写真下：蘇林教授による中国語模擬授業
＊写真は9月20日撮影

3期4日間オンラインと対面で実施

本年度のオープンキャンパスは、6月21日、7月18日・19日、9月20日の3期4日間に渡って実施しました。本年度は、高大接続改革のもとで進められる新入試制度の初年度に当たり、また、新型コロナウイルス感染症が大いに懸念される中での開催となりました。

特に、新型コロナウイルス感染症の拡大に対しては、十分な配慮と慎重な姿勢をもって、実施計画を見直し、緊急事態宣言が発せられた春先には6月21日に予定したオープンキャンパスの学内実施を見送り、オンデマンドでの開催に切り替えました。具体的には、事前に本学のホームページからLINE登録をしていただいた方を対象にして、例年のオープンキャンパスで実施してきた大学の概要説明や模擬授業などを動画で配信して視聴して頂くとともに、個々のご質問などにお応えしたものです。こうした本学の公式LINEを通しての受験生との情報交換は、今日も続けており年度末まで継続します。また、緊急事態宣言が解除され、高校や大学に日常が戻りつつあった7月と9月のオープンキャンパスでは、慎重な感染対策を検討し、午前と午後同一内容を2回繰り返して参加者の3密を避けるなど、事前予約と人数制限の下で開催しました。その結果、年度を通しての参加者数は開学以来最大だった去年の558名から332名へと減少しましたが、9月の実施に限ってみると、過去最大の141名(前年128名)へと増加し、事前に公表した参加予定定員を超えたため、午前と午後の参加希望時間の変更をお願いして来学願うことになりました。9月の参加者に依頼したアンケートからは、「実際のキャンパスの雰囲気を知ることが出来た」「模擬授業や個別相談が参考になった」などの回答が多く見られたことや、例年に比べて「3年生の参加者」が多かったことなどが特色でした。

また、新入試制度の初年度に関わっては、本学においてはじめて実施する「総合型選抜の説明会」を行うとともに、既に、出願している生徒には担当の教員が「第1回目の事前指導」を実施しました。さらに、学校推薦型選抜(指定校制・公募制)や一般選抜、共通テストなどの変更点や改善点などの説明には、積極的な質疑応答が行われるなど、高校生の情報収集への意欲が伝わる場もありました。

毎年、本学のキャンパスを広く社会に開き、共学ポリシーに共感する皆さんにご来学をいただいて、高校生や保護者と在学生や教職員とのよき交流の場となってきたオープンキャンパスは、ウィズコロナやアフターコロナに応じた内容となるよう検討しながら、改善させていきたいと思っています。おわりになりますが、本年度のオープンキャンパスがご参加された皆様のご理解とご協力により無事に終了したことにお礼を申し上げます。

(入試・広報センター長 堂徳 将人)

✦ 2020、2021年度の キャリア支援について

例年であれば終盤を迎えつつある大学4年生の就職活動ですが、今年は新型コロナウイルスの影響で、早めに就職活動を終わらせる学生が例年になく減っているようです。今年度の就活からは例年とは異なった変化が、数的にも内容的にも見て取れます。就職情報企業の各調査では、新年度入り早々の内定率こそ昨年を上回っていましたが、春以降に新型コロナウイルス感染対策による活動自粛が社会全体に拡がると、好調であった新卒採用を巡る状況も大きな負の影響を受けるようになりました。

例年内定者が増え始める5月の大型連休明けや、企業による就職協定上の選考開始時期にあたる6月、大学の夏休み入り前後の7月と、就活状況に生じた変化を伝える各種報道が次第に目を引くようになりました。正式内定を迎えた10月の大手企業を対象とした日本経済新聞の調査は、内定者数が前年比で11.4%減ったと伝えています。その理由には新型コロナウイルスや米中摩擦が挙げられていました。新卒者の採用活動を通年でみた場合、おもに前半では大手や中堅企業が活発に動き、後半になると地場の企業が採用活動を本格化することが知られています。新型コロナウイルスの影響が続くなかで、秋以降は地元企業への就職活動が増えますが、より経済的影響を受け易い地元企業への就活では採用人数変更等で注意が必要となります。

新型コロナウイルス感染対策は学生による各企業の採用情報収集から内定にいたるまでのステップにも変化を生じさせています。多くの就活生と企業の採用担当者が集まる合同企業説明会は、3月以降軒並み中止となりました。本学でも、10月17日に北海学園大学と共催で予定していた学内合同企業説明会は、両大学のキャリア支援センターで協議の結果中止となりましたが、一部参加予定企業の希望により単独企業説明会に変更しその後に行われました。

対面での説明会に替え多くの企業で積極的に進められたのがインターネットを利用した広報・選考活動です。WEB上で会社説明会を開催し選考のための面接も基本的にも実施するという形式が一般化しつつあります。ただし新形式の明確なひな形は、各企業が導入間もないこともありまだ存在しません。実態は運用を巡る試行錯誤が採用する企業と就職を目指す学生の双方で続いている状況です。



高校生 懸賞作文の募集

(主催：北海道商科大学 後援：北海道新聞社)

第8回高校生懸賞作文の入賞者決定

2020年度北海商科大学主催（北海道新聞社後援）「高校生懸賞作文」には道内各地から過去最高の303編の応募がありました。本学主催の高校生懸賞作文の募集は、2012年度より実施し今回で8回になりました。高校生懸賞作文募集の趣旨は、高校生の鋭い観察眼で現代の市場、マーケティングに関心を持って頂くことで、本学の取り組みが少しずつ道内の高校に認知されるようになったと応募者数が物語っています。作文のテーマは例年に引き続き「①日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちの観光スポット」「②日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのグルメ」「③日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのお土産」のうちどれか一つを選んで応募していただきました。厳正な審査の結果、表のとおり16名の方々が入賞されました。

例年、表彰式を開催していましたが、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、表彰式は実施しません。本学ホームページに入賞者を発表するとともに、表彰状、副賞をお送りします。

(入試・広報副センター長
橋元 理恵)

	テーマ	氏名	高校名・学年
1位	グルメ	齊藤 朋香	札幌啓北商業高校3年
1位	グルメ	鈴木 萌々花	札幌啓北商業高校3年
2位	観光スポット	南 の子	小樽未来創造高校2年
2位	観光スポット	山室 諒真	札幌新川高校1年
2位	観光スポット	小玉 栞寧	札幌新川高校1年
2位	グルメ	渡邊 真優	倶知安高校2年
3位	観光スポット	山田 涼香	札幌国際情報高校3年
3位	グルメ	加賀 千智	札幌国際情報高校3年
3位	観光スポット	中鉢 蒼	二セコ高校3年
3位	グルメ	土井 彩	札幌国際情報高校3年
3位	お土産	竹中 みそら	札幌国際情報高校3年
3位	グルメ	須藤 ののか	札幌新川高校1年
3位	グルメ	川口 真奈	倶知安高校2年
3位	グルメ	徳田 小暖	倶知安高校2年
3位	お土産	北野 梢	札幌啓北商業高校3年
3位	観光スポット	田村 玲二	利尻高校1年

入賞者一覧〔敬称略〕

例年3年生を巡る企業の採用活動は、冬休み頃からIT

系等一部企業で徐々に動きが始まり、3月に入ると会社説明会の開催が本格化します。今時点で次年度採用日程の変更情報はなく、就職活動日程の基本的枠組みは2021年度も同じとなります。大卒の求人倍率は2015年頃から高止まりが続き、この傾向は今後も変わらないとみられていますが、2021年度はコロナ禍の影響で業種・企業ごとの採用人数・倍率にこれまで以上の大きな増減が生じると予想されます。

この夏の各企業のインターンシップ実施率は約8割と、引き続き高い水準に踏みとどまっています。一方本学で恒例となっていた対面での3年生向け就職ガイダンス／講座が、今年度は新型コロナウイルス対策から実施が見送られてきました。現在3年生にはWEB上で北海商科大学・北海学園大学の学生のための就職支援ポータルサイトである「ミナトコム」への初期登録を促していますが、今後大学のキャリア支援活動はこのプラットフォームが中心となります。就職情報サイトへの登録だけでなく、ミナトコムへの登録を必ず行い積極的に活用してください。（キャリア支援センター長 村松 祐二）

2020年度 合同業界研究会 / 合同企業説明会（3年生）

実施時期	研究会・説明会
2021年2月6日(土)	学内合同業界研究会（WEB開催）
2021年2月20日(土)・22日(月)	学内合同業界研究会（対面開催）
2021年3月1日(月)・2日(火)・3日(水)	学内合同業界研究会（対面開催）

状況等により変更となる場合があります。

■中国語スピーチコンテスト■

「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト全日本予選大会入賞・スピーチコンテスト北海道大会入賞

中国の孔子学院本部主催の「『漢語橋』世界大学生中国語コンテスト」は、今年、「コロナ禍」の影響により、各地域や国々の予選はオンラインで開催されました。日本においては、「日本華人教授会議」主催と「日本孔子学院協議会」共催により、まず日本全域を北、中、東、西、南に五つのブロックに分けてオンラインで予選を行いました。本学商学科3年の川原凌君は、6月29日、北日本ブロック（北海道、青森、秋田、岩手、宮城、山形、福島）予選で優勝を獲得し、北ブロックの代表に選出されました。次いで7月19日、オンラインで行われた「『漢語橋』世界大学生中国語コンテスト全日本予選大会」で3等賞を受賞しました。

川原凌君は本学に入学して以来、中国語の学習に励んできました。その成果は2018年10月、日中友好協会が主催する「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」で特別優秀賞に入賞し、さらに、今回は最高レベルの「『漢語橋』世界大学生中国語コンテスト全日本予選大会」で3等賞を獲得しました。

当大会においては、中国語のスピーチ、中国知識、技芸の3つの項目を競いますので、相当の研鑽が必要です。この競技の様子は、「『漢語橋』世界大学生中国語コンテスト」を主催する「孔子学院」本部により全世界中に発信されております。

川原凌君は、中国語を専攻している日本全国の多くの名門校からの出場者と中国語コンテストの実力を競い、平素の努力が実り、こ



『漢語橋』世界大学生中国語コンテスト全日本予選大会の賞状を手にする川原凌君

●『漢語橋』世界大学生中国語コンテスト全日本予選大会で3等賞を受賞した川原凌君のコメント

ー高校3年の時に中国人の爆買いのニュースを見て、これから中国語を勉強すれば将来役に立つかもしれないと思ったのが興味を持ったきっかけです。山東省の煙台大学にこれまで2度留学しました。中国語の発音は4パターンしか無いので一見簡単そうですが、少しでも間違えると全く違う意味になってしまいます。現地の方に、発音が綺麗だと褒められた時は素直に嬉しかったです。中国と日本を行き来するような仕事に就くことが夢ですが、今は在学中にHSK6級を取ることが一番の目標です。



対面による単独企業説明会の様子（9月19日）

国際交流事業について



新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国際交流センターの活動も大きな影響を受けざるを得ませんでした。北海商科大学は中国（山東大学【威海】・煙台大学）・韓国（大田大学校）・カナダ（レスブリッジ大学）の協定校と交流事業（学生・交換教授の派遣・受け入れ）を行っています。まず、中国の協定校からは、前期に留学生が来日できない状態となり、やむを得ず後期に来日を延期しましたが、感染症の影響が収束せず、今年度の受け入れは中止するという運びとなりました。韓国の協定校からも、留学生が来日できず、やむを得ず来年度に来日を延期することになりました。また、中国からの交換教授の受け入れも行えていない状況です。派遣については、中国・韓国への短期（5か月間）留学生派遣が行えず、隔年で実施していたカナダへの短期（3週間）の研修生派遣も見送らざるを得ませんでした。かろうじて、安全に十分配慮しつつ韓国への長期派遣（1年間・右報告記）と、中国の協定校とのオンライン授業受講（中国留学予定者対象・右報告記）を行うことができました。今後、新型コロナウイルス感染症が収束し、学生のみなさんの安全が完全に保証された後、国際交流事業を順次再開していく予定です。

（国際交流センター長 水野俊平）



写真上：協定校のカナダレスブリッジ大学、写真下左から山東大学【威海】、煙台大学、大田大学校

留学報告記



観光産業学科 3年 浅野 結花



韓国・大田大学校留学



私は今回、韓国に留学して文化の違いをととても大きく感じています。韓国留学は2度目ですが1年次の半年留学の時とは違い、韓国語をほぼ理解できる状態の1年留学は韓国の良いところも悪いところも実感できていると思います。私は今まで韓国人はこうだとか国単位で人の性格を決めつけるのはおかしいと思っていましたが、長期生活しているいろいろな人と関わってみると、やはり育った環境や触れてきた文化によってその国の人の特徴は現れるのだと感じます。特に友達と最も共感できたのはメッセージアプリで「ご飯食べた？」と聞くところでした。日本人だとご飯を食べたのか聞かれたとき、これから一緒に食べようと誘われるのではないかと推測しますが、韓国での「ご飯食べた？」はHow are you?のような挨拶的な意味らしく、「まだ食べてない」と答えると「早く食べな」と言われるので、理解できない文化の一つでした。逆に日本人は返信が遅い、自分の意見をはっきり言わないなど日本人の特徴を知ることでもできました。私は長期で海外生活することによって、より日本を好きになることができました。環境もそうだし、人の性格や特徴も。自分が育った国以外の国を全て受け入れるにはまだまだ時間がかかりそうです。（2021年1月帰国予定）



写真上：全州で韓服を着ました、下：日文科の韓国人学生と歓迎会で

観光産業学科 3年 齋藤 友里奈



中国・煙台大学リモート留学

コロナの影響で私は講義もテストもすべてオンラインの留学を行っています。そのため、留学中最も印象に残っている思い出は友人との道内旅行（写真右）です。ただ家で講義を受けるだけでは勿体ないので、この期間は日本を見つめ直す時間にもあてています。前半は基礎的な内容だったのですが、後半でクラスが変わり難易度も格段に上がりました。正直ついていくのが大変です。対面であれば分からない時、ニコッと笑えば誤魔化せるのですが、音声のみのためそんな技は通用しません。ただ逆に、声調や発音をより意識するようになりました。オンライン留学は、現地留学とは違い「やっていけば伸びる」という生易しいものではないため苦労する点も多いですが、やりがいがあります。残りの期間もモチベーションを維持して取り組んでいきたいと思っています。



■韓国語関連コンテストでの受賞者、道内最多！■

韓国語作文コンテストの結果

7月には駐札幌大韓民国総領事館が主催する『ハングル三行詩コンテスト』がありました。『三行詩』は、日本の「あいうえお作文」と似ており、自分の思いを韓国語で伝える言葉遊びのようなものです。本大会では大学生だけでなく、一般の方々なども参加し、208件の応募がありました。本学から佐藤千波さん（3年）が見事に一般部門で指定テーマ「優秀賞」（2位）を、上根ひなたさん（2年）、時田笑里さん（2年）、水嶋友里さん（3年）、星川結香さん（3年）、砂田理奈さん（4年）、川越小鈴さん（4年）、佐藤未波さん（4年）の7人が「特別賞」を受賞する快挙を成し遂げてくれました。

また、駐日本国大韓民国大使館韓国文化院と東京韓国教育院が主催する『2020韓日交流作

文コンテスト』の結果発表が9月にありました。全国規模のハードルの高い大会ですが、本学の学生3人が受賞しました。韓国語エッセイ一般部門で國本優姫さん（3年）と文梨円花さん（2年）が、韓国旅行記部門で國枝梨花さん（2年）が入選しました。

本学は、韓国語関連コンテストで道内で最も多い受賞者を出しており、学内外から注目されています。韓国語教育部門は、道内で最も韓国語ができる人材を育成することを目指し、韓国語関連大会に触れる機会を多く用意しています。

今回、日頃の努力が成果となりました。本学の韓国語教育に尽力いただいている先生方に感謝申し上げます。また、学生達の頑張りにも心から敬意を表したいと思います。（李鳳）



北海道韓国語弁論大会で銀賞・銅賞ダブル受賞の快挙！

11月7日には第22回北海道弁論大会（札幌韓国教育院主催）がありました。今年はコロナで大会現場には関係者だけが立ち入り、弁士の参加者は事前に動画を撮って提出する形で行われ、当日、オンラインで状況が発信されました。コロナの中でも学生の韓国語勉強への意欲はなくならず、本学からは3人の学生が弁論大会に出場しましたが3人とも受賞することができました。まず、國枝梨花さん（2年）が「愛しているという言葉」というテーマと小俣彩純さん（2年）が「真実！誠実！謙虚！」というテーマで共同銀賞を、間島未結さん（2年）が「キムチでピンクを？」というテーマで銅賞を受賞する快挙を成し遂げることができました。何度も原稿を修正する応募前の作業から、できた原稿を

完璧に覚えて立派なスピーチをしてくれた学生達の努力に敬意を表したいと思います。おめでとうございます。（李鳳）



写真上：オンラインで弁論する間島未結さん、中：銀賞の國枝梨花さん（左）と小俣彩純さん、下：銅賞の間島未結さん

●『ハングル三行詩コンテスト』の特別賞を受賞した水嶋友里さんのコメント
—大学に入ってから様々な韓国語関連大会にチャレンジしてきましたが、今回は新たに「三行詩コンテスト」にも参加し、特別賞を受賞できて嬉しいです。



佐藤千波さん



上根ひなたさん

●『2020韓日交流作文コンテスト』で入選した國本優姫さんのコメント

—私は日韓の流行の関係性について韓国語でエッセイを書きました。全国大会で受賞することが出来てとても嬉しいです。私が韓国語に興味を持ったきっかけは、高校生の時の異文化交流授業で韓国語の授業を受けたことでした。そして道内で最も多く韓国語授業時間を設けている北海商科大学に入学しました。大学1年生の交換留学プログラムで約5ヶ月間、大田大学校に留学し、韓国の生活や文化を学び、韓国の魅力を沢山知ることができました。韓国の文化や生活を知ってこそ理解出来るような韓国語の言い回しを学び、日本語との違いにも面白さを感じるようになりました。



國本優姫さん



時田笑里さん



水嶋友里さん



星川結香さん



砂田理奈さん



川越小鈴さん



佐藤未波さん



國枝梨花さん



文梨円花さん

大学生100人文化交流 訪中団に参加

観光産業学科4年 久郎津 伊吹

一般財団法人日本中国文化交流協会(会長 黒井 千次)の派遣で、日本の大学生100名から成る日中文化交流協会大学生訪中団により、2019年6月11日(火)から6月17日(月)の7日間、北京や蘭州、敦煌を訪問し、北京林業大学や蘭州大学の大学生と交流しました。団員は北海道から四国(徳島)まで40の大学から選ばれ、本学からは私と南岡静香さん(観光産業学科4年)が、協会の会員である蘇林教授より推薦していただき、参加することができました。中国へは1年生後期に山東省煙台大学へ留学をしており、今回で2度目の訪中でした。

私は中国語を1年生から履修しており、多種多様な中国文化等触れてきました。その中でも多くの刺激があったのがこの訪中団でした。全国各地の分野も年齢も違う大学生100人と北京・蘭州・敦煌を1週間かけ訪問するという他では体験することのできない濃厚な1週間でした。私は専攻である観光産業の観点からみる中国観光と、現地の方の思う日本観光について理解を深めるべく1週間過ごしました。

まずは北京の万里の長城登頂です。留学時1度訪れており2回目の登頂でしたが、前は冬、今回は夏と真逆の季節感を体感することができました。緑豊かで、風が心地よく、訪れる季節の違いで全く違う印象でした。訪れるたびに別な一面を見ることができる素敵な場所です。

敦煌の砂漠は初めて行きましたが、自然の迫力に圧倒されとても感動したのを覚えています。砂漠の山を炎天下の中登り、頂上からの景色は大自然を感じられる素晴らしい景色でした。中国はどこを訪れても歴史の中での重要な意味を持っています。大自然と中華文化の融合により魅力が増し、多くの人が訪れる意味を体感できました。

また、北京・蘭州それぞれの現地大学生との交流も多く設けられました。素晴らしいおもてなしと意見交換の場はお互いの文化を尊重しあう素晴らしい時間でした。1週間の交流の中で北海道のイメージを様々な方から伺いましたが、皆さん口をそろえて自然が素晴らしいと仰っていました。北海道の魅力はやはり自然なのだと改めて知る反面、他の魅力を伝えきれていないなとも感じました。

あっという間の1週間でしたが、私の中では一生の思い出となりました。また、そこでの体験や交流、感じたことは大きな財産になりました。日中が今後もより良い関係を築いていくためにも、この経験を広めていくことが大切だと思っています。これからも、日本と中国のそれぞれの魅力を発信していきたいと強く思いました。



写真① 万里の長城



写真②③ 敦煌の砂漠



写真④ 歓迎会での記念集合写真



11

12



李ゼミと舛田ゼミの皆さん

● 李炯直ゼミ
李炯直教授のゼミでは30人の1年生が学んでいます。多くの学生は韓国留学を希望しています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、今年度の韓国への交換留学が中止になりましたが、ゼミでは日本にいながら韓国文化を深く学ぶことをテーマとしています。

● 佐藤千歳ゼミ
対面授業を基本としながら、オンライン授業のアプリソフトウェアも活用し、教室と学生の自宅を中継で結んで毎週のゼミを進めています。学生も私(佐藤)も最初は戸惑いましたが、コロナ禍を契機にオンラインのコミュニケーションが日本社会でも急速に普及する中、本ゼミはICT技術を活用して表現力や情報収集力を磨く場ともなっています。



写真①② 李ゼミのグループディスカッション
写真③④ 佐藤ゼミの皆さんとオンライン対面併用授業
写真⑤ 舛田ゼミオンライン授業

「三國志から中国に興味を持ちました。経済を学んでいるので、中国経済のことをもっと知りたいと思ひ履修しました。少人数なので議論も活発に進みます」

● 舛田ゼミ 工藤統也君のコメント

● 李ゼミ 秋元海人君のコメント

「交換留学が中止になり行けず残念でしたが、韓国文化を深く学ぶことができています。是非留学につなげたいです」

● 舛田佳弘ゼミ

変化と多様性の大きい中国経済を全体として理解するには体系的な知識(○○学など)が必要になります。例えば「昨年の上海ではこうだった」という断片的な知識だけでは他の地域や時代の理解は困難です。本ゼミでは主に経済学の視点からアプローチを行います。1年次で経済学を学んでいる学生はほばいないので全員ゼロからのスタートですが、先入観が無いことで却って面白い発想が出ることもあります。数学的な表現など慣れない分野で面食らうこともありますが、学生同士で協力して進めています。ゼミの進行は学生がテーマに基づいた報告を行い、その内容について皆で議論するというオーソドックスなものです。学生たちの柔軟な発想には驚かされています。(舛田佳弘)

● 佐藤ゼミ 伊藤脩真君のコメント

「中国の経済発展は日本への影響が大きく、商学を学ぶ上で、また将来的にも役立つと思います。政治にも興味があり難しい内容ですが、授業はわかりやすく楽しく学べています」

ゼミ訪問

中国・韓国 ● 異文化ゼミナール

商学部1年後期の「異文化ゼミナール」は、前期の「社会文化ゼミ」で学んだ内容を生かしながら、より専門的な学習を深める少人数の授業です。担当教員8人が、自らの専門分野の知見を生かし、2年次以降に履修する「コマーシブル研究ゼミ」「観光研究ゼミ」につながるような授業を行なっています。

本年度の異文化ゼミは、新型コロナウイルスの世界的な流行で1年次後期の中国・韓国留学プログラムが中止となった事態を受けて、授業の内容を一部追加しました。中国留学の希望者には、中国を研究対象とする舛田佳弘准教授と佐藤千歳准教授が、韓国留学の希望者には韓国を研究対象とする李炯直教授が、各国の留学先での学習内容を一部にとり入れたゼミを行なっています。



最終的には異文化ゼミを通して学んだことをもとに「4泊5日間の韓国旅行を計画する」というテーマで期末調査発表を行います。これは全員、韓国語で発表です。留学が実施されていたら、提携大学の太田大学校あたり前のように韓国語で授業を受け学ぶこと、同じことを異文化ゼミで行おうという李教授の考えです。韓国語での発表は1年生のゼミとしてはかなりハードルの高いものですが、ゼミ最後の5週連続で行われ、今後の留学などにつながる貴重な経験にしたいという狙いがあります。

● 佐藤ゼミ 伊藤脩真君のコメント

「中国の経済発展は日本への影響が大きく、商学を学ぶ上で、また将来的にも役立つと思います。政治にも興味があり難しい内容ですが、授業はわかりやすく楽しく学べています」

研究のいま ● 加藤 由紀子 教授 「旅行案内からみる往事の旅事情」



旅行に行くときには誰しも、様々な情報を集め比較検討をしています。今は、日常的にインターネットだけでなく、チラシやポスターなど紙媒体や、テレビなどの映像で様々な旅行や観光に関する情報に接することができますが、旅行ガイドブックからの情報入手には、まだまだ一定の需要があるようです。もともと、地域生活文化がどのように紹介されているのかに興味があったため、ガイドブックのなかの情報をまとめたのが、ガイドブック研究のきっかけでした。

ガイドブックの歴史は古く、日本では、紀行文で有名な紀貫之の「土佐日記」は平安時代に書かれています。この時代の紀行文は文学的な色合いが強く、そこからの旅情報は内容も受け取る人も限られていました。旅行が盛んになった江戸時代には名所、宿場の場所、名物、距離などを記した「道中記」や、名所を図で表した「名所図会」などが多く出版されました。明治時代に入り鉄道網が整備されると、鉄道会社が旅行案内書を出版するようになります。北海道は早くから鉄道が敷設されていますが、北海道の案内記は、1884年の井上茂兵衛編「大日本道中独案内記」に距離や運賃が載っていることなどから、この時代は、人々の移動は商用であり、開拓や石炭輸送など物流に重きを置いていたものと推測されます。

現在のガイドブックに近い形になったのは、昭和に入ってからで、1924年に出版された『鉄道旅行案内』にはじまり、樺太鉄道案内記などには、駅や都市の案内のほか、近隣観光地案内が掲載されています。鉄道省による『日本案内記』（1936年）の北海道版はシリーズの最後のため、特に軍事情報につながる部分は削除されており、津軽要塞司令部検閲済の印など当時の戦争の影が濃くなった旅事情を垣間見ることができます。

1893年のジョン・パチュラー 著「日本北海道案内記」は、函館商工会がシカゴ万博(1893年)において配った北海道のことを紹介する英文版のガイドブックです。第一章は北海道の概要で、商工会を意識した産業などについてもかなり詳しく記載されています。第二章は



旅行行程で、交通機関などと、2週間のモデルコースについて説明があります。興味深いのはレクリエーションで、魚釣り(鮭・鱒)、狩猟(熊)について注意事項などが書かれています。また、衣服についても防寒のほか、欧米人は蚊などに血液を吸われやすいので、蚊帳を持つていくように勧めています。このように外国人の目線で書かれたガイドブックも面白く、海外に出かけた際には、現地の書店で北海道や日本の観光ガイドブックや旅行雑誌を探して購入するのが楽しみでした。香港のガイドブックには、道産品アンテナショップの記載があったり、普段の生活を知りたいという訪日外客の意向もみえてきたりします。

今取り組んでいるのは、旅行用のガイドブックではなく、1810年(文化7年)八隅蘆庵(やすみろあん)の旅行用心集です。多くの旅行をした蘆庵に、知人がいろいろな知恵を問い合わせてきたものをまとめたもので、なかでも道中用心61ヶ条は、現代でも通用することが書かれています。例えば、持ち物はなるべく少なくすること、宿についたら方角を確かめ、出入り口を覚えること(避難経路の確認)、神社や寺などへの落書き禁止などです。

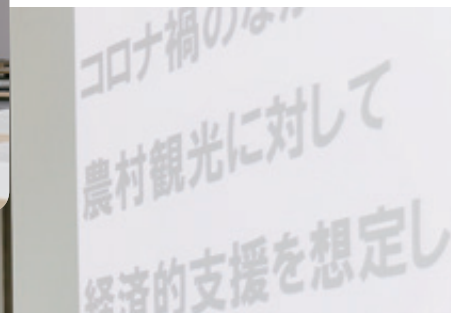
新型コロナウイルス感染症のため、旅行のスタイルも変わりつつありますが、今から200年以上も前に書かれた旅行用心集の、旅の不安を解消し、トラブルを未然に予防するための旅のマナーなどを読むと、旅の普遍性を改めて感じ、昔の旅人がより身近に感じられてなりません。

北海道地域観光学会 全国大会

新型コロナウイルス対応で、多くの学会が、開催延期、開催中止を余儀なくされているなか、本学会(会長 伊藤昭男 本学教授)では、11月7日「第7回全国大会」を、対面式で通常開催いたしました。当初は、他学会同様、WEB、オンラインなど、大会形式を大幅に変更しての開催も検討しましたが、“学会員による空間と時間の共有”の重要性を鑑み、対面式での開催といたしました。対面式での通常開催とはいえ、当然のことながら、新型コロナウイルス防止対策には万全を期しました。会員の皆様が安心して大会へご参加いただけますように、学会事務局では十分なコロナ対策を施している旨を、事前にメールでお知らせするなど、対策の周知にも努めました。そのほか、大会当日の会場では、学会事務局スタッフによるマイクの消毒をはじめ、定期的な換気、さらに、万が一に備え、出席者の座席位置を特定するなど、念には念を入れての運営でした。今年は、基調講演、シンポジウムなどのイベントは企画せず、発表セッションのみの募集でしたが、発表者の熱のこもった口述やフロアからの的確かつ明瞭な質問によって、発表時間が超過するほど、たいへん活発な意見交換の場となりました。無事に開催、終了できましたのは、日頃より、本学会の活動へ理解を示していただくとともに、大会会場の使用許可の求めに応じていただきました大学側のお取り扱いのおかげであると感謝しております。(伊藤寛幸)



13 本学伊藤寛幸准教授による発表



O・B・OG NOW! 社会に不可欠なトラック輸送。 業界の発展のために貢献したい



就職活動のときは「社会に不可欠な仕事がしたい」と考え、エネルギー業界や医薬品卸、物流関係を中心にエントリーしました。なかなか内定をもらえずに苦戦していたとき、大学から紹介されて受けたのが「北海道トラック協会」です。緑ナンバーをつけて貨物を運ぶ、宅配運送から長距離運送まで全道のトラック運送事業者2900社が加盟する業界団体で、会員の利益のために働いています。私は業務部で主に労働関係を担当しており、会議資料の作成、助成事業の受け付けや申請の取りまとめなどの業務を行っています。

北海商科大では阿部秀明先生のゼミに所属して人口推計を学びましたが、労働人口の減少にともないトラック運送業界もドライバー不足が深刻です。人材を確保するため、自衛隊や高校に出向いて運送業界への就職説明会を行うこともあります。いま日本では年間47億トンの物流があり、その9割がトラックによる輸送ですが、その重要性はあまり意識されてい



ないのではないのでしょうか。トラック輸送の価値と役割をより広く周知し、業界への就職を促す広報活動も私の仕事の一つです。仕事をする上でのベースになっているのは、大学で学んだ経済やマーケティング、アカウンティングの知識のほか、3年次に取得したMOSの資格ですが、就職してからでも勉強し続けなくてはなりません。私の場合、いまはコロナ禍で一時的

● 公益社団法人 北海道トラック協会
業務部 業務二課

15 谷藤 淳さん [平成26(2014)年 商学部商学科卒業]
タニフジ ジュン



中断していますが、英会話の教室にも自主的に通うようになりました。

印象に残っている仕事は、去年開催した女性部会の大会運営です。女性経営者で組織する部会なのですが、会場の準備から講師の手配、当日のスケジュールや司会の台本づくりなど、裏方の仕事をほぼ一人で担当しました。60名くらいのイベントでしたが、参加した皆さんがとても喜んでくれ「この仕事をやっていてよかった」と、私自身もうれしい気持ちになりました。業界全体のことを理解できるようになると「もっと、こうすればいいのでは」と自分なりに提案ができるようになり、どんどん仕事が面白くなってきています。

今年に入職して7年目ですが、実は私が就職したときは15年ぶりの新入職員でした。歳の近い先輩がいなくて環境に慣れるまで大変だったのですが、私の後に商科大から後輩が3人も入ってくれ、若手職員が増えています。後輩に聞かれたことには何でも答えられる頼りがいのある先輩でいたいですし、会員事業者に最大限のメリットを提供できるよう、



トラック運送業界に貢献していきたいと思います。

写真:北海商科大学卒業の後輩の皆さんと。左から新川美香さん(2019年卒)、谷藤淳さん、尾崎雄太さん(2015年卒)、浅理新さん(2019年卒) 札幌市中央区の(公社)北海道トラック協会にて

高大連携のさまざまなプログラムを実施

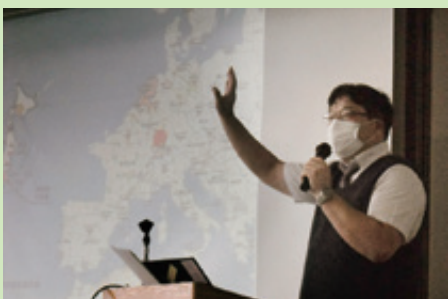


本学は北海学園札幌高等学校(平成27年)、札幌東商業高等学校(平成28年)、札幌国際情報高等学校(平成30年)と連携協定を結び、さまざまなプログラムを実施し、多くの成果が生まれつつあります。

まず、韓国語や中国語を学ぶプログラムに重点を置いてきました。ネイティブ教員による語学指導を行い韓国語能力試験(TOPIK)・中国語検定(HSK)合格を目指すだけでなく、留学生との交流会、留学経験者との懇話会等モチベーションを高める企画を加えています。その上で、アジアの文化や経済、さらに商業や観光にも興味を広げるように専門科目の授業も行い、高校との往来は半年でそれぞれ10回以上に及びます。

また、昨年から札幌国際情報高等学校グローバルマーケティング科3年生を対象とした4回にわたる連続授業を開始し、「観光から見える中国少数民族のいま」、「アジアの再興とニードムの謎」といった各教員の専門分野、まさにグローバルマーケティングに関わるハイレベルな学習機会を提供しています。さらに今年は、1年生対象に本学教員による授業、石狩湾新港での見学会や企業の講演会といった「物流」をテーマとした大規模なプログラムも実施しました。北海道運輸局や北海道トラック協会をはじめ、多くの企業や団体のご尽力があつて成立したものです。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。

こうした高校と大学間にとどまらない取り組みは、高校生の成長および地域社会の活性化に欠かせないものと位置づけており、今後一層充実させていく方針です。(保坂智)



写真上・下：札幌国際情報高等学校で授業する相浦宣徳教授

北海道運輸局、企業と共催で物流体験会を実施



「物流」は私たちが生活する上でなくてはならない社会的インフラであり、災害発生時でも止めてはならない重要な役割を担っています。withコロナを前提とするこれからの新しい生活において、物流の重要度は高まるばかりです。このような中、10月7日・23日に札幌国際情報高等学校の生徒さんを対象とした「2020物流体験会in石狩湾新港」を共同開催しました。これは、国土交通省・北海道運輸局、札幌地区トラック協会、北海商科大学らが連携した取り組み(本学からは、堂徳将人教授、保坂智准教授、相浦宣徳教授が参画しています)で、高等学校の生徒の皆さんに、①物流に関する基礎知識の学習、②実際のモノの流れの見学、③物流に携わる皆様からの生の声の聴聞などを通じて、物流の重要性を学ぶとともに、興味・関心をもっていただくことを目的としています。10月7日には、「物流システム論1,2」の授業を担当する相浦宣徳教授がグローバルビジネス科の生徒さん120名を対象に授業を行い、同23日には、北海道を代表する物流会社の経営者の皆さんによる授業、東洋水産(株)、(株)エース、YKK AP(株)での見学会を行いました。参加してくれた皆さんが、将来「物流をデザインする人材」となって活躍してくれることを期待しています。(相浦宣徳)



写真上・下：物流体験会で(株)エースにおいて、ロボット型フォークリフトの作業風景などを見学する札幌国際情報高等学校の皆さん

「レジリエントで持続可能な社会に向けてーポストコロナの世界と日本ー」

◆ 10月14日に札幌国際情報高等学校で行われた深澤史樹准教授の授業要旨

現在、我々が直面する新型コロナウイルス感染症に対してレジリエント(resilient:困難で脅威的な状況にも関わらず、うまく適応する過程・能力・結果の意味)な対応が求められている。そこで得た経験を踏まえ、ポストコロナ(感染症が終息した後の時期を想定)を考えると、①持続可能性の優先順位の上昇(SDGsの潮流の加速)、②集中から分散・多極に向かう、③デジタルの加速とリアルとの融合など、世界的に見ても社会を形づくる3つの潮流が浮かび上がる。

平常時の経済合理性のみを追求した社会は脆弱であり、ショックの発生も計算に入れた合理的で持続可能な社会の構築が求められることを学んだ。ポストコロナの時代には、「自律分散」と「協調」の二つの軸により、積年の多様な社会課題の解決を図る必要があり、その過程で、デジタル技術を活用しつつ、複合的でイノベティブな新しいモデルの創造を目指すことが、持続的な経済成長と豊かさ向上の原動力となりうると考える。



札幌国際情報高等学校で行われた深澤史樹准教授の授業

16

17

北海道創生研究会

新型コロナ後の北海道観光

9月24日、北海学園北東アジア研究交流センター(ハイナス)に設置されている「北海道創生プログラム」は、「新型コロナ後の北海道創生」の一つとして、「北海道観光のあり方」を考究する「研究会」を開催しました。北海道観光を北海道の活性化(創生プログラム)に組み込み、大きな役割を発揮させるには、いかなる方策がありうるかを検討するもので、「研究会」は毎月1回、5回ほど開催されます。(問い合わせは、ハイナスまで)

研究会には、「北海道創生プログラムハイナス特別研究員」のほか、各町村のリーダー、北海道のシンクタンクのメンバー、大学の研究者、かつて北海道の開発計画の立案に携わったメンバーなども参加しており、活発な議論を重ねています。

「北海道創生プログラム」は、ハイナスの趣旨(「アジアの時代の新たなアジア提携を求めて」)に即して、町村調査や「北海道創生プログラム講義(北海商科大学)」などを行ってきましたが、この「研究会」では、北海道における観光政策の意義と北海道観光の今後の在り方を明確にし、「新たなアジア提携」の一環に位置づけ、北海道の「地域創生」に生かしていく方途を各界に発信していきます。(西川博史)



写真上：9月24日に行われた研究会の様子、写真左は11月26日に行われたハイナス郭倩さんの発表

STAFF NOW！



★One of voice now！

子供はいつのまにかハンカチを畳めるようになっていたり、保育園で練習してきた手洗いや消毒の仕方を上手に教えてくれる等、子供の成長の早さに驚きつつたくさんを子育てから学んでいます。

■入試・広報センター

森元 牧子 [モリモト マキコ]

入試・広報 担当

皆さん、こんにちは。事務職員の森元です。

産休・育休を経て令和2年2月に職場復帰いたしました。現在、二児の子育てと仕事であっという間に1日が終わる充実した日々を過ごしております。育児は体力的に大変ですがとても楽しく、子供からたくさんのことを学ばせてもらっています。

プライベートはさておき、私は主に高校生へ向けた大学の広報活動や入学者選抜の実施に関する業務を担当しています。入試・広報センターは受験生と接する機会が多い反面、在学生の皆さんとはあまり接点のない部署ではありますが、皆さんには大学案内パンフレット制作に関する取材や撮影について快く協力していただきとても感謝しています。

さて、私が普段仕事をしていて気になっていることが1つあります。それは、「事務室に入りづらいです…」という皆さんの声をよく耳にすることです。実際、PCに向かい真剣な表情で作業をする事務職員が集まると入室しづらい空気になるのかな、と感じます。ですが、皆さんの大学生活の適切なサポートをすることが事務職員の役割の一つです。新型コロナウイルスの影響で生活様式が変化し、不安なこともあるかと思います。些細なことでも構いませんので、遠慮なく事務室を利用していただけると嬉しいです。「失礼します」「こんにちは！」と元気に入室し、気軽に声をかけてくださいね！

医務室から『二十代の健康』⑭ 医務室 西川 葉子

『インフルエンザと新型コロナの同時流行!?』

そろそろインフルエンザが流行する季節ですが、今年はさらに新型コロナウイルス感染症もあり、『同時流行』する恐れがあります。今知っておきたい情報をまとめました。

1.新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの違いは？

発熱や咳などの症状は似ていますが、新型コロナウイルス感染症は、感染しても症状があらわれないことや発症前の無症状の時期でも周囲へ感染させるリスクの高いことが特徴です。つまり症状がなくても感染しているリスクが、自分にも周りにも常にあります。

2.インフルエンザワクチンは受けた方が良いの？

年齢により差はありますが、発病、重症化の予防に有効です。今年は同時感染を防ぐためにも接種することをおすすめします。

3.予防方法は？

みなさんが普段行っている【3つの密を避ける】【手洗いなどの手指衛生】【マスク着用などの咳エチケット】などの基本的な感染対策を継続する『新しい生活様式』は、もちろんインフルエンザの予防にも効果的です。からだの抵抗力を高めるため、十分な睡眠とバランスのとれた食事を心がけましょう。



●新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの違い

	新型コロナウイルス感染症	インフルエンザ
症 状 の 有 無	発熱に加えて、 味覚障害・嗅覚障害を伴うことがある	ワクチン接種の有無などにより程度の差があるものの、 しばし高熱を呈する
潜 伏 期 間	1～14日 (平均5.6日)	1～2日
無 症 状 感 染	数%～60% 無症状患者でもウイルス量は多く、感染力が強い	10% 無症状患者ではウイルス量は少ない
ウイルス排出期間	遺伝子は長期間検出するものの、感染力があるウイルス排出期間は 10日以内	5～10日 (多くは5～6日)
ウイルス排出ピーク	発病1日前	発病後2、3日後
重 症 度	重症になり得る	多くは軽症～中等症
致 死 率	3～4%	0.1%以下
ワ ク チ ン	開発中であるものの、現時点では 有効なワクチンは存在しない	使用可能だが季節ごとに有効性は異なる
治 療	軽症例については、確立された治療薬はなく、多くの薬剤が臨床試験中	オセルタミビル、ザナミビル、ペラミビル、ラニナミビル、パロキサビル、マルボキシル
ARDS (急性呼吸窮迫症候群) の合併	しばしばみられる	少ない

出典：一般社団法人日本感染症学会提言「今冬のインフルエンザと COVID-19 に備えて」より



●新刊紹介●

本学教員の友友秀人教授と佐藤千歳准教授の新刊著作を紹介します。



『中国・台湾・香港の現代宗教』
佐藤千歳 (本学教員) 他共著
2020年9月／明石書店



『教育カウンセリングで徹底サポート！不登校の予防と対応』
友友秀人 (本学教員) 他編著
2020年10月／図書文化社

行事予定

※ 2020 年 12 月現在の情報です。今後も予定を変更する可能性があります。

令和 2 (2020) 年		2/13 土	一般選抜〔2月13日試験〕
12/20 日	総合型選抜〔Ⅱ期〕試験日	2/19 金	一般選抜〔2月8日試験〕〔2月13日試験〕合格発表、
12/25 金	総合型選抜〔Ⅱ期〕合格発表		大学入学共通テスト利用選抜〔Ⅰ期〕合格発表
12/26 土	冬季休業開始	3/1 月	卒業生発表
令和 3 (2021) 年		3/6 土	後期修学指導面談 (予定)
1/7 木	冬季休業終了	3/11 木	大学入学共通テスト利用選抜〔Ⅱ期〕合格発表
1/8 金	講義再開	3/18 木	卒業証書・学位記授与式、卒業生を送る会
1/15 金	卒業論文提出期限	3/22 月	学年末休業終了
1/16 土 ・17 日	大学入学共通テスト	3/23 火	新3年次ガイダンス (午前) (予定)、 新2年次ガイダンス (午後) (予定)
2/2 火	後期講義終了	3/24 水	新4年次ガイダンス (午前) (予定)
2/3 水	学年末休業開始	3/25 木	新2年次履修登録 (午前) (予定)、 新3年次履修登録 (午後) (予定)
2/4 木	成績開示 (予定)、 成績・採点異議申し立て受付開始 (予定)	3/26 金	新4年次履修登録 (午前) (予定)
2/5 金	成績・採点異議申し立て受付終了 (予定)	3/29 月 ・30 火	履修登録訂正日 (全学年) (予定)
2/8 月	一般選抜〔2月8日試験〕		